

明日への扉

No.2

街を自分達で

最高に魅力的な場所に!!



Yasufumi Kawabata
川 畠 康 文 さん

平成7年鹿屋高校卒業、平成11年千葉工業大学卒業。株式会社プラスディー設計室代表取締役。Barairo Fes-ti-balのや実行委員長。街のにぎわいづくり協議会副会長。(38歳)



3月7日・8日に「Barairo Fes-ti-bal」を開催します。今年のテーマは「今、街が変わるとき」です。今までの集大成のつもりで頑張りますので、ぜひ、お越しください。

29歳の時に帰郷し設計事務所を立ち上げました。仕事柄、デザインにお金を払うという文化を作りたいという想いで、デザインにこだわる雑貨店や設計事務所を集めて「デザインマーケット」を開催するのがすべてのきっかけです。

イベントを通じてできた仲間たちと異業種交流会や野外音楽フェスも開催しました。この仲間の共通点は「無いもの・欲しいものは、自分達でつくろう!」という前向きで無謀な若者ばかり。

そして、商店街のシャッターが開いてにぎわっている姿を見てみたい、デザインマーケットを空店舗の中でやったら面白いのではないかという話になり、多くの方のご協力のもと、いくつかの空店舗を使ってBarairo Fes-ti-balを開催しました。すると、歩行者天国でもないのに1万人以上の集客!商店街が人と笑顔で埋まった姿は嬉しかったです。

また、京町という通りにて、一日屋台村「ぶらり京町横丁」やワークショップ「京町の未来づくり会議」を街のにぎわいづくり協議会として開催し、この京町の魅力を再発見することができました。今後、鹿屋を代表する飲食街になっていくに違いありません。

補助金に頼った一時的な活性化は、逆に街の経済力を奪います。エリアの価値を高めつつ、小さくても事業を起こしていくことが重要です。先日開催した「リノベーションスクール@鹿屋」はまさにこの考え方を体現するためのものです。スクールを通して、エリアの価値を高めつつ実際の空店舗を稼働させることを目的とした実践型スクールです。ここで起きた意識改革は今後この街へ大きな影響を与えていくことになると思います。

ただイベントをやつて多くの集客を得ても、街の日常と未来を変えていく現実的なビジョンと活動がないと意味がないですよ。僕らの活動も街が変わるための「きっかけ」にすぎないと考えています。今後は実際に、街に魅力と経済を生んでいくための活動に移っていく時期と思っています。高齢化社会になるほどコンパクトシティである必要性が高まり、中心市街地の重要性も増してくるはず。僕は、この鹿屋とこの街のポテンシャルを引き出せば、日本有数の住みやすい街になると信じています。自分達の街を、自分達の力で、最高に魅力的な場所にしていこうとする前向きな仲間が増えていくと嬉しいですね!